

第3章 平成28年度事業計画

目次

1	概要	60
2	会議・会合	62
3	粉体工業展	62
4	常置委員会	64
5	規格・標準化委員会	67
6	臨時委員会	69
7	分科会	70
8	粉体工業技術センター	76
9	技術情報交流懇話会	78
10	共催・協賛及び後援行事	78
11	刊行物	79

第3章 平成 28 年度事業計画

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

1. 概要

平成 28 年は、前年後半からの中国を始めとするアジア新興国経済の下降傾向や原油価格の低迷の影響により、世界的に株価や為替の動きが不安定になってきました。わが国では、金融緩和策として 1 月末に日銀が史上初となるマイナス金利の導入を発表しましたが、市場流通資金の増加という期待とは違って、株安、円高という副作用ともいえる現象が現れました。その一方、緩やかながら雇用、所得環境の改善の動きが続いており、今後は各種政策の効果が現れることも期待でき、景気の下振れリスクに警戒は必要なものの、全体として景気は緩やかに上昇していくとの見方も現れています。

この状況下、当協会といたしましては、粉体技術に関わる企業・学識経験者が集まった団体として、わが国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与するという役割を果たす所存であります。そのためにも、基本技術を磨きあげ、新しい技術の展開に繋ぐとともに、より広い応用分野を持つ粉体技術を築くことを目指して行きます。

公益目的事業(継続事業)活動の柱である分科会活動を中心とする**調査・研究事業**、月刊情報誌「粉体技術」の発行などによる**広報・普及事業**、教育部門を中心とする**人材育成・教育事業**、JIS、ISO などの**規格・標準化事業**および**海外交流事業**など、これまでに引き続き強力で推進します。

また、これら公益目的事業を支える**展示会事業**、**標準粉体製造頒布事業**に加え、**会員共益事業**の積極的展開を図り、粉体工業技術があらゆる産業の基盤技術であり、先端技術への入口に位置することを深く認識し、魅力ある事業活動の展開に取り組んでまいります。会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年度は、「**粉体技術の着実な発展と普及を目指す分科会活動**」「**基礎技術の伝承と普及を目指した人材育成・教育事業**」「**ナノ粒子への対応技術とナノ粒子利用技術の検討**」「**『国際粉体工業展東京2016』を成功させること**」、を活動の重点目標に掲げます。

1) 公益目的事業(継続事業)の活動計画概要

1. 1) 調査・研究事業

19 の分科会は、夫々に掲げた中期的テーマ(3 年程度)に基づき、平成 28 年度(単年度)活動を展開します。

分科会運営委員会は、各分科会に対して活動の活性化に向けての助言や、分科会の再編の方向付け、拡大分科会運営委員会などを開催して分科会の抱えている問題点に共有化と解決、ナノに関しての委員会と分科会のインターフェースとなる、ことを目標に活動を行います。

技術委員会傘下の「技術用語検討委員会」は、粉体用語集「粉体用語ポケットブック」を国際粉体工業展2016 までに発行することを目標に活動中です。

ナノ粒子関係では、ナノ粒子安全性検討委員会は、「ナノ粒子安全性ハンドブック」発刊後のアフターケアも終わったので今年度の活動を休止します。

ナノ粒子利用技術委員会」は、a)ナノ粒子で課題となっている単位操作を明らかにする、b)情報収集のため、大学や企業の研究者による講演会を開催する、c)「粉体技術」10 月号にナノ粒子利用技術の特集を組む、d)国際粉体工業展2016にてセミナー開催、などを計画しています。

1. 2) 広報・普及事業

(1) シンポジウム・フォーラムなどの開催

「粉体工業技術に関する調査研究の成果の提供」の一環として、当年度も積極的にあらゆる機会を通じ、粉体技術フォーラム、セミナーあるいはシンポジウムの開催に努めます。また、他の学協会との共催、後援および協賛行事にも積極的に参加し、ホームページ、メールマガジンおよび月刊誌「粉体技術」などを通じ、粉体工業技術の啓発と普及を推進します。

(2) 粉体技術交流・相談事業

国際粉体工業展東京2016では、「技術相談コーナー」を開設し、技術相談に応じるほか、産学技術交流推進

部門では、常時協会内外からの粉体技術相談に対応し、産学官や企業間の技術交流を推進し粉体業界活性化の役割を果たしてまいります。

1. 3) 人材育成・教育事業

教育部門を中心に、粉体技術者の継続的、専門的生涯教育および人材育成の一貫として、平成 28 年度も以下の講座、セミナーの開催を予定しています。

・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)(粉体工学会企画)	3回
・粉体エンジニア早期養成講座(8講座)	8回
・粉体技術専門講座(分科会企画)	4回
・粉じん爆発・火災安全研修【初級】	1回
・粉じん爆発・火災安全研修【中級】	1回
・特別講座(海外情報セミナー)	1回

1. 4) 規格・標準化事業

標準粉体委員会は、1 μm から 90nm のサブミクロン領域試験用粒子(FSTP)の不確かさ測定を実施すると共に、市販粒子径測定装置によるラウンドロビン試験を実施します。また、現在当協会が販売している試験用粉体を規定している JIS Z 8901 の改定やその他関連規格の検討を行います。

規格委員会は、粉体工業技術に必要とされる JIS 原案の作成、ISO の新規発行・改正に伴う JIS 原案の作成及び JIS 見直し、さらに協会規格原案の作成および見直しを行い、規格化、標準化事業の成果の普及・広報に努めます。

規格委員会傘下の JIS 原案作成委員会 1 は、「コロイド系…ゼータ電位測定の方法」の他 3 件の ISO の JIS 化原案を作成します。JIS 原案作成委員会 2、3 では、ISO の JIS 化を審議します。JIS 原案作成委員会 4 では、「静的画像解析法」の ISO の改定に伴う JIS の改定を検討します。

ISO 対応委員会は、ISO に関連した報告会を開催します。

1. 5) 海外交流事業

会員に有益な海外情報の収集・紹介を行ないます。また、5 月の International Powder & Bulk Solids 2016(米/ローズモント)、10 月の International Powder/Bulk Conference & Exhibition 2016(中国/上海)に参加し、情報収集を行います。

2) その他事業の活動計画概況

2. 1) 展示会事業

国際粉体工業展東京2016を、11月30日～12月2日、東京ビッグサイト 東1・2・3ホールにて開催します。320社・団体、1030小間の開催規模で目下出展募集中です。最新情報フォーラム、各種セミナー、製品技術説明会、技術相談、学生交流会など多くの併催行事を計画しています。

2. 2) 標準粉体製造頒布事業

標準粉体委員会で進められている MBP 粒子、FSTP 粒子の CRM 化を目指した測定結果を HP へ掲載し、MBP 粒子、FSTP 粒子への関心を高め、引き合いの喚起を図ります。また、既存の標準粉体について「製品安全性データシート(SDS)」の交付やラベル表示を実施し、製品への安心感と信頼感を向上させます。

2. 3) 会員共益事業

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成、親睦などの促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会…火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計 14 回
- ・推薦審査委員会…例年通り、分科会功労賞、委員会・部門功労賞、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦及び個人会員・会友の入会審査を行います。
- ・人材育成委員会…4回の「若手のつどい」を開催します。また、国際粉体工業展東京2016開催に併せ、「学生ツアー・交流会」を企画・運営を行います。

2. 会議・会合

2.1 第35回定時総会

開催日時：平成28年5月24日(火) 13:00

場 所：東京/東京ガーデンパレス

次 第：*総会

*表彰式

協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰

*特別講演

*懇親会

2.2 理事会

	開催日時	開催場所
第1回	平成28年5月12日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回	平成28年5月24日(木) 14:40	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成28年8月5日(金) 15:00	東京/東京ガーデンパレス
第4回	平成28年11月16日(水) 12:30	京都/京都センチュリーホテル
第5回	平成29年3月15日(水) 14:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.3 諮問会議

	開催日時	開催場所
第1回	平成28年4月12日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第2回	平成28年7月12日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成28年10月26日(水) 14:00	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回	平成29年3月2日(木) 14:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	平成28年11月16日(水) 15:00	京都/京都センチュリーホテル

2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成29年1月20日(金) 13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成29年1月21日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

3. 粉体工業展

3.1 国際粉体工業展東京2016の開催

来る11月30日(水)から12月2日(金)までの3日間、国際粉体工業展東京2016が開催される。粉体工業展は当協会にとって、また粉体技術・粉体機器に係る事業者の方々にとっても最大のイベントである。あらゆる“粉”に関する最新情報を提供する場であり、産・官・学の技術交流および粉体技術に関連する産業の発展に寄与することを目的として開催するものである。

東京ビッグサイトに会場を移して4回目(通算21回目)の開催となるが、来場者アンケートでの要望にこたえて今回も開場時間を1時間延長して10:00から18:00(最終日は17:00迄)とし、さらに魅力的な展示会づくりを目指して準備を進めている。

◇開催概要

会 期：2016年11月30日(水)～12月2日(金) 10:00～18:00(最終日は17:00迄)

会 場：東京ビッグサイト 東1・2・3ホールおよび会議棟

テーマ：この一粒・・・夢をかたちにー粉の技術ー

◇出展対象技術・製品

製造・プロセス機器ゾーン

粉砕装置／ふるい分け装置／分級装置／ろ過装置／混合装置／混練装置／造粒装置／コーティング装置

／乾燥装置／供給装置／輸送装置／分散装置／集じん装置／成形装置／表面改質装置／包装装置／
焼成装置／他

計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器／計装機器／ラボ機器／制御システム／FA装置／他

材料、エンジニアリング・情報ゾーン

新素材／フィルター材／スクリーン／機能性粉体／エンジニアリング／受託加工サービス／出版／コンピ
ュータシステム／助剤／他

◇今回の併催行事

●特別講演

初日の11月30日(水)に「失敗に学ぶ」と題し、「失敗学」で著名な畑村創造工学研究所の畑村洋太郎東京
大学名誉教授による特別講演を開催する。

●最新情報フォーラム

今回は最新情報フォーラムのテーマとして「食品」「先端材料」および「粉体シミュレーション」を採り上げ、そ
れぞれ著名な講師による講演会を開催する。また展示会場内に特設展示ゾーンとして「先端材料ゾーン」
「粉体シミュレーションゾーン」を設置して関連展示を行う。

●海外情報セミナー

「海外情報:ミャンマー、マレーシア、タイ」をテーマに、講演会を開催する。

●粉じん爆発情報セミナー

粉じん爆発の危険性評価、予防など最新の情報をテーマにしたセミナーを開催する。

●ナノ粒子利用技術セミナー

従来実施していたナノ粒子の安全な取扱いに関するテーマから利用技術に重点をおいたテーマでセミナー
を開催する。

●粉体工学入門セミナー

従来2日間開催であったが、人気が高いことから学会の協力を得て3日間開催する。

●粉体機器ガイダンス(New)

新たな企画として、各分科会(今回は粉碎と計測を予定)を主体とした、機器選定に役立つ初心者向けセミナ
ーを実施する。

●製品技術説明会

製品技術説明会の会場は、従来の3会場から4会場に増やし募集枠を最大84件に拡大し、展示会場内で
開催する。

●特別展示(粉の広場)

アカデミックコーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術相談コーナーをはじめとし、今回新
たに現場における危険を実際に体験してもらう安全体感コーナーを設ける等、多彩なイベントを企画している。

◇関連行事

●学生ツアー・交流会

11月30日(水)展示会初日に学生及び企業のフレッシュマンを対象に粉体産業説明会、展示会ツアー、
交流会を開催する。

●粉体工学会秋期研究発表会初の試みとして、粉体工業展と協調しながら学会活動していることをアピ
ールする目的で、2日目の学会セッションは展示会場内で行うことにした。

●粉体技術総覧 2016/2017 発行

粉体技術を一望のうちに収めた、「粉体技術総覧」を展示会の来場者に無料で配布する。

4. 常置委員会

4.1 総務委員会（赤堀肇紀委員長、松島徹、六車嘉貢各副委員長）

委員会開催予定:3回

活動:

- 1) APPIEメールマガジンにつき、問題点を把握し、改善提案を行う。(作成・発信は協会総務が担当)
- 2) 協会ホームページにつき、問題点を把握し、改善提案を行う。(更新・メンテナンス・改善作業は協会総務が担当)
- 3) 海外情報セミナーの開催
 - ①第6回海外情報セミナー
 - ・開催日:2016年12月1日(木) 13:00-16:00
 - ・場所:東京ビッグサイト 会議棟 605
 - ・テーマ・対象国:タイ、マレーシア、ミャンマー
 - ・国際粉体工業展東京2016の併催行事として開催予定
 - ・海外交流委員会と合同企画(総務委員会、海外交流委員会からの選抜メンバーで構成される企画委員会を立ち上げ、セミナー詳細を検討する)
- 4) 「事業案内2016年度版」(日本語版)、「事業案内2016/2017年度版」(英語版)について、内容を確認し発行する。(作成・印刷は協会総務が担当)
- 5) 会員名簿(日本語版)について、内容を確認し発行する。(作成・印刷・発送は協会総務が担当)
- 6) 「日本粉体工業技術協会 最近の5年(2011年～2015年)」誌について、内容を確認し発行する。(作成・印刷・発送は協会総務が担当)
- 7) 「国際粉体工業展東京2016」で非会員出展会社に対し入会勧誘を行う。
- 8) 分科会、教育部門開催のセミナーなどに出席された非会員会社に対し関係部署と連携の上、入会勧誘活動を行う。
- 9) 技術情報交流懇話会における「5分間プレゼン」の実施と定着化を行う。
- 10) 協会活性化のための法人会員向けアンケートについて検討し実施する。
- 11) 過去3年間の入退会リストを作成し、入会理由・退会理由を把握し増強と退会防止について討議する。
- 12) 他団体との交流を深めるための活動について検討を行う。
- 13) 会長特命事項

4.2 技術委員会（山田幸良委員長、牧野尚夫副委員長）

委員会は必要に応じて開催する。

活動:

- 1)引続き「技術用語検討委員会」、「ナノ粒子利用技術委員会」及び「ナノ粒子安全性技術委員会(開催時)」の活動に参画する。
- 2)委員会、分科会に共通する技術的問題などが生じた場合対応していく。

4.2.1 技術用語検討委員会（牧野尚夫委員長）

委員会は必要に応じて開催する。

活動:

- 1)執筆督促および脱稿予定;～H28,3月末
委員による内容確認:H28,5月末
発行予定期日;H28,10月上旬
- 2)販売計画;①法人会員に無料配布(1部):300部
②法人会員へ販売(新入社員や営業マンへ、プレゼント用など):200部
③その他(各種セミナー、展示会などで販売)
④H29年度以降の粉体入門セミナーで無料配布。

4.2.2 ナノ粒子安全性検討委員会（明星敏彦委員長、遠藤茂寿、近藤郁各副委員長）

役割はほぼ達成したと考えており、技術情報のウォッチングは行うが、小休止とし、委員会は必要に応じて開催する。なお、明星委員長にはナノ粒子利用技術委員会に特別委員として参加いただく。

4.2.3 ナノ粒子利用技術委員会（奥山喜久夫委員長、伊ヶ崎文和、福井武久各副委員長）

委員会開催予定:3回、小委員会開催予定:3回

活動:

- 1) 委員会の会員より、ナノ粒子の利用に関する情報、および湿式および乾式で課題となっている単位操作を明らかにする。
- 2) 課題となる単位操作について、専門として取り組んでいる大学および企業の研究者による講演を行い、情報の収集を行う。
- 3) 粉体技術10月号に特集「ナノ粒子利用技術の動向」(仮題)により、委員会の活動を紹介する。
- 4) 2016年東京粉体工業展セミナーにて、ナノ粒子利用の現状、課題、本委員会の活動状況を講演する。

4.3 「粉体技術」編集委員会（谷正美委員長、鈴木道隆、加納純也各副委員長）

委員会開催予定:本委員会 4回、小委員会 12回

活動:

予定特集号

平成 28 年	4月号	協会を支える分科会活動
	5月号	電池とそれを取り巻く社会インフラ
	6月号	湿潤粉体の混練性評価とその実際
	7月号	ものづくり革新
	8月号	非接触計測技術
	9月号	技術・研究における倫理
	10月号	ナノ粒子の利用技術
	11月号	焼却炉特集
	12月号	医薬品製造プロセス
平成 29 年	1月号	地域に根付く(息づく)粉体技術・産業
	2月号	晶析と微粒子生成
	3月号	国際東京粉工展を終えて

4.4 推薦審査委員会（加藤文雄委員長、赤堀肇副委員長）

委員会開催予定:3回

活動: H27 年度に準じ、年 3 回の会合で、各賞の表彰規定に則って、審査業務を実施していく。

4.5 粉体工業展委員会（増田弘昭委員長、村田博、菅原一博各副委員長）

委員会開催予定:必要に応じて開催する。

活動:「粉工展大阪 2015」の反省等をふまえ、「国際粉工展東京 2016」を支援・助言していく。

4.5.1 東京粉体工業展委員会（村田博委員長、大川原正明、楨野利光各副委員長）

委員会開催予定:6回、小委員会(正副委員長:2-3回、広報、出店促進拡大:2回、会場運営実行:1回)

活動:

国際粉体工業展東京 2016 の企画内容についてさらに詳細な計画を詰めるとともに、広報活動及び出展・来場促進活動に注力し、開催規模目標を達成する。

4.5.2 大阪粉体工業展委員会（菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀各副委員長）

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会(必要に応じて出展促進委員会等を開催する)

活動:

第 11 回の反省を踏まえ、次回「粉体工業展大阪2017」の開催(インテックス大阪、2017 年 10 月 11 日(水)～13 日(金))に向けての準備。

主たる課題

- 1) 前年に引き続き会場が4・5号館となるため、出展促進
- 2) 併催行事数とスケジュールの検討
- 3) 効果的な広報についての検討
- 4) 運営面での改善

5) その他、反省会での指摘事項の検討、改善

4.6 分科会運営委員会（伊ヶ崎文和委員長、伊藤正康副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回、ヒアリング1回、小委員会1～2回

活動:

- 1)分科会活動の基本は、分科会が関心のある分野における自主的な調査・研究活動により、粉体技術の改善、向上、普及に努めることであることから、各分科会活動の活性化に向けて助言を行うと共に、分科会の再編等の方向付けを行っていく。
- 2)そのために、例年と同様に委員会、拡大分科会運営委員会等開催し、各分科会がかかえる活動上の問題点などの共有化を行うと共に、その解決に向けて取り組む。
- 3)ナノ粒子利用技術委員会と分科会とのインターフェース役について必要に応じて対応していく。

4.7 海外交流委員会（松本幹治委員長、浅井信義、横山豊和各副委員長）

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会1回

活動:

- 1) APPIE annual REPORT や英文ホームページ等で、協会情報を海外へ発信
- 2) 総務委員会と合同で、国際粉体工業展東京における海外情報セミナーを企画、開催
- 3) 会員に有益な海外に関する情報の収集、紹介
- 4) 分科会等の海外活動について協力
- 5) Powder & Bulk Solids 2016 5月3-5日(火-木)米国・ローズモント に参加、協会ブース設営
- 6) IPB 2016/10月19-21日(水-金)中国・上海 に参加、協会ブースとともに Japanese Pavilion(共同出展ブース)設営

4.8 人材育成委員会（西村卓朗委員長、浅井信義副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回、小委員会1回

活動:

- 1)「若手のつどい」を年4回行う(委員会と同日)
- 2) 国際粉体工業展東京 2016、学生ツアー・交流会の企画運営を行う。
- 3) 高齢者雇用についての事例勉強会を行う。

4.9 標準粉体委員会（森康維委員長、後藤邦彰副委員長）

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会3回

活動:

- 1) JIS Z 8901 改定作業:JIS 試験用粉体1の粒子径分布測定法について、沈降法の継続使用か、他の方法への移行が必要かについて、結論を出したい。必要に応じて小委員会の開催や実験を行なう。一方、経産省より勧告があった試験用粉体1の化学組成分析法の記述の追補改定を実施すべく作業を行う。
- 2)「サブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子(FSTP)」の測定:計装測定分科会の協力を仰ぎラウンドロビン試験を実施する。当委員会は測定条件の決定、測定指針の策定、測定結果の整理・検討の作業を担う。また、平行して SEM を使用しての、不確かさ測定を森委員長に委託し、28年度中には結果を出すことを目指す。
- 3) 協会規格 SAP14-12「SAP 試験用粉体 3」の JIS 化準備作業を行う。本規格は ISO15957 Test dusts for evaluating air cleaning equipment に規定されているフィルター試験用の粉体に関するものである。ISO15957 が日本空気清浄協会によって JIS 化されるので、同協会から「SAP 試験用粉体 3」の JIS 化を強く要請されている。29年度 JIS 化を目指し作業を考えているが、規格委員会、製造事業部門、集じん技術小委員会の共同作業となると見込んでいる。

5. 規格・標準化委員会

5.1 規格委員会（遠藤茂寿委員長、松山達副委員長）

委員会開催予定:2回

活動:

- 1) 規格類(SAP, JIS, ISO)の現状把握
- 2) JIS 規格原案作成支援及び定期見直しの対応
- 3) 規格関連委員会の動向把握
- 4) 規格化、標準化事業の成果の普及・広報

5.2 ISO 対応委員会（松山達委員長、吉田英人副委員長）

委員会開催予定:1回

小委員会開催予定:粒子特性評価小委員会 2回、
ふるい小委員会 1回、

集じん用ろ布小委員会 2回、小委員会WG-B及びWG-Cを個別に2~4回開催予定

活動:

1)ISO対応委員会

- ・ISO/TC24/SC4を含めた粉体工業技術に関連する国際標準化の現状と動向を把握してもらうため、「国際幹事報告会」「関連ISO/TC/SC報告会」を開催する。
- ・TC 24/SC 4国際幹事の業務遂行を支援する。

2)粒子特性評価小委員会

- ・ISO/TC 24/SC 4が担当する国際規格の制定・改正の審議、新規IS作成など「ナノ物質等の計測評価に関する国際標準開発」事業を推進する。
- ・第50回(2016年4月22-23日, 独・クラウスタール)及び第51回(2016年10月22-23日, 米・オーランド)ISO/TC 24/SC 4国際会議に参加し, 国際標準の審議を行う。
- ・国際幹事業務の円滑な遂行を支援する。

3)ふるい小委員会

- ・ISO/TC24/SC8のP-メンバーとして国際規格化に対応していく。
- ・許容誤差について検討を行う。
- ・JIS Z 8807-1の見直しを行う。

4)集じん用ろ布小委員会

- ・「集じん器用ろ布の品質評価に関する国際標準開発」を積極的に推進する。
- ・ISO/TC 142/WG 7(コンビーナ:金岡先生)で日本提案のFDIS 16891が今年1月にISとして発行した。対応JISの取扱及びISO 16891のJIS化を検討する。
- ・ISO/TC 142/WG 5において進められるPWI 16313(part 1, part 2)に関しては, part 2のプロジェクトリーダーとして日本提案であるバグフィルター技術の適応が可能な性能試験方法になるような規格化を推進する。
- ・ISO/TC 142第12回総会(2016年9月19-22日, 米アトランタ)及びWG5 &WG7に参加する。

5.2.1 粒子特性小委員会（桜井博委員長）

活動:

平成 27 年度に引き続き、ISO/TC 24/SC 4 における ISO 規格文書作成に取り組む。

1)ISO/TC 24/SC 4 国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画する。

- ・第 50 回国際会議(ドイツ・クラウスタール、平成 28 年 4 月 22~23 日)
- ・第 51 回国際会議(アメリカ・オーランド、平成 28 年 10 月 22~23 日)

2)定期見直しおよび各審議段階での投票に対し、各 WG 対応委員会を中心に審議し、投票する。

3)レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質、気相計測法など、当小委員会が重点的に規格作成を進めている案件について、文書作成や新規提案を行う。

4)遠藤委員が 2015 年 1 月から 3 年間担当している SC 国際幹事業務を支援する。

5.2.2 ふるい小委員会（松山達委員長）

活動:

- 1)JIS Z8801-1 の改訂について議論し、改訂を行う場合には別途 JIS 原案作成委員会を立ち上げる必要が

ある。その場合には、本小委員会での体制と進め方を議論する。

2)ISO 改訂等については、現状一段落している。今後、日本からの貢献をどのような体制でどのように行うかを議論する必要がある。

5.2.3 集じん技術小委員会（金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長）

活動

WG-A:TC146SC1WG に対応:休止中

WG-B(井村委員長):TC142/WG7で活動をしている。日本がConvenorである。ISO16891”集じん器用ろ布の劣化評価に関する試験方法”のFDIS投票が100%の賛成で承認。今年1月に発行されたので、このJIS化を提案する。

本年度からは、“ろ布性能測定を目的とする稼働中集じんシステムからのろ布のサンプリング法”の国際規格化に取り組む。確認のための実稼働集じん施設でのサンプリングと劣化評価試験を実施する。(PL:広島大学福井先生)

WG-C(杉野委員長):TC142/WG5で活動している。今年度から委員長が後夷氏から杉野氏に交代した。昨年のTC142金沢会議で、金岡先生がISO16313Part2のPLに指名されたので、Part2のPWIを作成し提出した。そのためのラウンドロビンを実施する。

5.3 粉じん爆発委員会（土橋律委員長、山隈瑞樹、林浩司各副委員長）

委員会開催予定:3回

活動:

1)安全教育

粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級)について、企画、運営をおこなう。講師の交代も考慮し、今後の講師の体制・講習内容を検討する。同時にテキスト(2冊刊行している)について、将来的に新講師により改訂をおこなう方向で検討する。

・粉じん爆発・火災安全研修【初級／基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催

平成28年秋に、関西にて開催予定。平成27年度の研修で内容見直し、講師の交代をおこなったので、平成27年度とほぼ同様の体制で実施予定。

・粉じん爆発・火災安全研修【中級／技術編】(2年ごとの春に関東で開催)の開催

平成29年春に、(独)労働安全衛生総合研究所で開催予定。内容の見直しをおこない、講師交代に対応してゆく。

2)規格の作成

規格の周知や規格の運用面等でのフォローを継続してゆく。

3)行事等への対応

国際粉体工業展東京2016における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催予定

学術情報、技術情報、規制・規格情報、国際動向、災害情報などからトピックスを選定して企画する予定。

4)最新の規制、規格等動向把握

・安全試験国際規格調査検討ワーキング・グループの設置

平成27年度にキックオフしたワーキング・グループで、粉じん爆発・火災にかかわる海外の安全試験規格を調査し、整理する作業を進める。

・IEC/TC31国内委員会への対応

本委員会より山隈副委員長が参加し、動向をフォローしてゆく。

・粉じん防爆構造規格のIEC規格への整合化

新たな工場電気設備防爆指針(国際整合技術指針)についてフォローを継続する。

5)分科会等との連携

平成27年度は実施できなかったが、各工程を専門的に検討している分科会等との連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施してゆく。

6. 臨時委員会

6.1 JIS 原案作成委員会(1) -コロイド分散系—ゼータ電位の測定法—光学的方法-

(東谷公委員長、中村彰一副委員長)

委員会開催予定: 本委員会1回、小委員会1回

活動:

ISO13099-2 に対応する JIS 原案作成を完了する。

平成 28 年 6 月末の原案提出に向け、素案審議、修正を重ね、原案を作成する。

6.2 JIS 原案作成委員会(2)

-体積置換による密度の測定—ガスピクノメータ法による骨格(スケルトン)密度の測定— (鈴木昇委員長)

委員会開催予定: 本委員会2回、分科会4回

活動:

ISO12154:2014 に対応する JIS 原案を作成する。

固体・粉体材料の真の密度はその材料の基礎物性として大変重要である。しかし、試料が閉気孔(外表面に通じていない気孔)を有する場合には、実験的に得られるものは真の密度ではなく骨格(スケルトン)密度と呼ばれ、粉体・固体材料における比表面積測定(JIS Z8830)や細孔径分布(JIS Z8831-2,-3)を求める際の基本データとして利用されるため、骨格密度の正確な測定が必要となる。

当該国際規格を JIS 化することで、粉体製品の物性値提供に当たっての信頼性、および国際貿易面での優位性が増す。

6.3 JIS 原案作成委員会(3) エアロゾル粒子の個数濃度—凝縮粒子計数器の校正

(桜井博委員長、奥田浩史、榎野成視各副委員長)

委員会開催予定: 本委員会2回、分科会4回

活動:

ISO 27891:2015 に対応する JIS 原案を作成する。

当該国際規格が対象とする装置は、粒径数 nm から数 100nm の気中の粒子数を個別計数できる商業化されたほとんど唯一の測定器であり、ナノマテリアル、エアロゾル、及びそれらの健康影響の研究分野や自動車排ガス中のナノ粒子数濃度に対する規制に用いられており、工業標準制定の社会的要求は高く、さらに今後より増していくと想定される。一方で、その校正サービスは国立研究開発法人産業技術総合研究所とその指導を受けた極少数の事業者によってのみ提供されているのが実情である。今後の校正需要の増加に対応するためにも標準化が求められている。

JIS 化により、凝縮粒子計数器の正しい性能の評価法、校正法が規定される事によって、使用者が適切に装置を選択し、装置の性能を維持することが可能となる。この装置が活用されるナノマテリアルを利用した産業の発展に寄与することが期待できる。

6.4 JIS 原案作成委員会(4) -粒子径解析—画像解析法 - 第 1 部: 静的画像解析法 (松山達委員長)

委員会開催予定: 本委員会2回、小委員会2回

活動:

ISO 13322-1(静的方法)が改訂・発行されたことを受けて、対応する JIS Z 8827-1 の改訂を行う。

旧版が主として写真撮影に基づく粒子径抽出を主な対象としていたのに対して、改正では昨今の技術トレンドに対応して、デジタル光学機器による静止画像の取り込みを前提とした記述に改められている。このため、取り込み画像の質的点検などの項目が追加された。また、最近の測定規格のトレンドに対応して標準物質(粒子)を用いる適合性検査の項目が加えられた。昨今の民生用光学機器の大きな発展に伴って、粒子径解析における画像法の位置付けは極めて大きなものとなっている。このため、JIS と国際規格との整合性を維持する必要性は大きい。本改訂は、旧版で十全にカバーできていない、こうしたデジタル計測にも対応するものであり、新たに本計測の基盤を与えるものになる。

7. 分科会

7.1 粉体ハンドリング分科会

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事、海老原裕之副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5～6月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
2	9月	関西地区	技術講演、製品紹介、懇親会
3	11～12月	関東地区	工場見学、技術講演、懇親会
4	H29.2～3月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会

幹事会開催予定：4回（上記本会合に併せて、または必要に応じて開催）

小委員会開催予定：4回（粉粒体ハンドリング技術編集小委員会/本会合に併せて開催）

活動：

中期活動テーマ

- 1)粉体ハンドリングをマテリアルハンドリングの範疇と捉え取り組みの範囲を拡大する。
- 2)最近の粉体ハンドリング産業の技術力の変遷を把握し、将来展望を見据えた基盤技術や解決困難な技術的課題を抽出し、研究や勉強の場を企画する。
- 3)「粉粒体ハンドリング技術」書籍の新規編集・発刊を実現する。
- 4)海外での分科会開催などグローバル催事を恒常化する。(海外でのテロ脅威・リスクを考慮し当面見合わせる。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) マテリアルハンドリング機器を取り込んだ分科会を計画・開催する。
- 2) 「粉粒体ハンドリング技術」書籍編集小委員会を開催し編集を進め当年度に発刊する。
- 3) 粉体エンジニア早期養成講座粉体ハンドリング I II の講座開催内容の見直しを行なう。

7.2 粉砕分科会

(内藤牧男コーディネータ、加納純也副コーディネータ、海老原尚代表幹事、須長克行、藤本信司各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	7月	足尾銅山ほか	工場見学、技術講演
2	H29.2～3月	未確定	工場見学、技術講演

幹事会開催予定：

7回（5月-東京・京都、7月-足尾、10月-大阪、12月-東京、1月-名古屋、3月-東京）

活動：

中期活動テーマ

- 1)会員(メーカー、ユーザー)に有益な情報収集や発信を、強く意識して活動する。
- 2)対象分野は、エネルギーと素材であり、さらに安全を、もう一つのキーワードに加え、伝統の無機材料を基本に原薬関連を含めた有機材料をも視野に入れ、良好なバランスを図りながら、さらに深めていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1)動員に汲々とせずとも参加者増が図れる開催内容の吟味、広報手段の見直しを進め、参加者中の幹事比率50%未満を、第一目標とする。
- 2)次期代表幹事候補2名を、幹事団の共通認識として、代表幹事の職務分掌の見直しを確立しながら、各幹事の、輩出企業内での負担軽減にも注力する。
- 3)本会合は2回にとどめる分、粉工展イベントで、実り多い協力が達成できることを目指す。

7.3 分級ふるい分け分科会

(吉田英人コーディネータ、秋山聡代表幹事、佐藤一彦副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	H28.6	岡山	塩および化成成品粉体工場(ナイカイ塩業株)の見学
2	H28.10	金沢	金沢大学微粒子プロセス研究室の見学
3	H29.2	未定	未定

幹事会開催予定：幹事会：3回（上記本会合に併せて、または必要に応じて開催）

活動：

中期活動テーマ

- ・粉体材料の高機能化に向けた分離径制御および高精度化技術
- ・分級ふるい分けに関する標準化

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会本会合を3回開催する予定である。一般および高付加価値粉体の製造工場の見学と講演会を実施し、粉体材料の粒子径調整技術の動向を調査する。また、ナノ粒子の分離・分級技術の調査とふるい分けに関するISO標準化の情報収集を行う。

7.4 乾燥分科会（田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪聡代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6.16	岐阜	環境関係の工場見学、講演会
2	11月	東京	乾燥関連の技術講演会

幹事会開催予定：幹事会：2回（上記本会合に併せて、または必要に応じて開催）

活動：

中期活動テーマ

食品、医薬、化学、環境、バイオマス、廃棄物など毎年テーマを変えて工場見学会と講演会を実施する。あわせて海外の乾燥シンポジウムなど、特に2016年8月に国際乾燥学会(IDS)が日本で開催されることから、そこでの最新の乾燥技術・研究動向の報告講演会を開催し、国内への情報発信を継続実施していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

第1回分科会：環境関連の工場見学、講演会を計画。

岐阜県美濃加茂市 可茂衛生施設利用組合緑ヶ丘クリーンセンター(乾燥・焼却・炭化設備の見学)

第2回分科会：乾燥技術、装置関連の講演会を予定。

7.5 集じん分科会（金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、杉野隆代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6.2	和歌山	集じん装置の多機能化検討
2	8月予定	中部	(仮題)ユーザー視点の集じん機への期待
3	11月予定	関西	(仮題)バグフィルタのISO化
4	2月予定	関東	(仮題)ユーザー視点の集じん機への期待

幹事会、小委員会開催予定：

幹事会：3回(随時、時期、場所 未定)

小委員会：3回(随時、時期、場所 未定)

活動：

中期活動テーマ

平成28年度からの活動テーマは、平成27年度より引き続き、①フィルターグループ、②集じんグループ、③バグフィルターハンドブック準備グループ、④教育グループの4つの小グループを主にした活動を推進し、分科会活動の一層の充実を図っていく。また規格委員会集じん技術小委員会において、バグフィルター試験法のISO化を引き続き進めるため、分科会として本活動を全面的に支援する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

平成28年度は現杉野副代表幹事を、代表幹事とする体制で推進する。分科会活動は平成27年度より引き続き各地区別幹事が、一層連携して活動できる体制とし、集じん装置のユーザー満足度の向上や、新たなニーズ発掘、先端技術の提供等を目的に、年4回の分科会を計画する。教育活動においては粉体エンジニア早期養成講座の充実を図ると共に、専門講座の開催を検討する。

7.6 混合・成形分科会（鈴木道隆コーディネータ、藤正督副コーディネータ、藤井淳代表幹事、菅原一博副代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	H28.夏	名古屋	工場見学会(ラムネの成形)
2	未定		

幹事会・小委員会開催予定：

幹事会：3回

活動：

中期活動テーマ

混合・成形分科会では粉体の混合・混練・成形に係わる『温故知新』と『最新技術』をテーマに、工場見学会と講演会を計画。

今年度の事業計画の概要と運営方針

粉体混合・成形がキープロセスであるセラミックスの成形技術や製薬・製剤技術など一連の粉体プロセスにおける今日的な課題に焦点を合わせた活動(見学会、講演会)を行う。小委員会活動にて取り組んできた粉体混合装置の特性評価方法については、H25年度に協会規格化、H27年度専門講座にて概説を行った。

7.7 造粒分科会 (村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、桑原敏之代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.3月	東京	技術討論会

幹事会開催予定: 5回(5月、他未定)

小委員会開催予定:4回(未定)

活動:

中期活動テーマ

造粒による有用な複合物質の創成アプリケーションと、様々な分野の「最新、ユニークな造粒技術、造粒装置」を紹介し、この分野の啓蒙を図る。

地道に開発を続けている造粒機器メーカーの新技術を洩れることなく、分析・紹介し、ユーザーニーズとそれに答えるメーカーの技術・開発の努力を有効に繋げてゆく。

年間テーマに従った技術討論会を行い、また、同じテーマに関わる造粒の現場に足を踏み入れて、現場の雰囲気を感じ取る施設見学会を実行する。

いずれは「生命に関わる造粒技術」(精子、卵子、DNA、細胞等)を取り上げたい。

今年度の事業計画の概要と運営方針

今年度は8月に基本的・典型的造粒装置を一堂に集め、専門技術者の指導を受けながら造粒操作を体験する専門講座の開催及び3月に「技術討論会」を企画、運営を実施する予定。

7.8 計装測定分科会

(森康維コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、鷲尾一裕代表幹事、阿川直樹、池田英幸各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月	和歌山	集塵分科会との合同開催、製鉄所の見学
2	9月	東日本	粉体関係施設の見学
3	H29.1月	東京	計装測定講演会

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて開催)

活動:

中期活動テーマ

ナノ粒子計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会は、見学会2回、講演会1回の合計3回の開催を目標とする。上記の中期テーマを継承し、粒子径分布以外の物性にも注目する。粉体エンジニア早期養成講座も例年通り実施予定。標準粉体委員会との連携を強化し、標準粒子のラウンドロビンテストを推進する。

7.9 湿式プロセス分科会 (岩田政司コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事、岡本泰次副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月	岡山	塩・化成品製造プロセスにおける分離技術
2	10月	大阪	食品廃棄物のエネルギー利用

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

水処理分野から先端材料創成技術に至るまで、湿式処理プロセスが必要とされているあらゆる分野を分科会の活動対象とする。

今年度の事業計画の概要と運営方針

会員ならびにユーザーのニーズを反映した見学・講演会を企画し、開催する。

若手研究者にも分科会への参加を呼びかけ、産学連携を活性化する。

7.10 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事、岸本武志副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	7月	中部	見学・講演
2	10月	関東	見学・講演
3	3月	関西	見学・講演

幹事会開催予定:5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

『輸送設備におけるシーズ、ニーズの探索』

今年度の事業計画の概要と運営方針

輸送の分野においては、近年、新たな研究・技術開発の進展に乏しく、従来からの技術の延長線上にあるのが現状である。この状況を打破するには、より新しいニーズ・シーズの発掘を行い、新たな展開の方向性を模索する必要がある。このような問題意識の下で、幹事会社が中心となり、幹事会を利用してニーズの探索を行う。また、分科会においては、新市場を中心として、年三回予定されている分科会の開催とそれに関わる新技術の講演を企画できるように努めていきたい。各分科会ごとにテーマを設けて関連性を持った企画運営を行う。

7.11 クリーン化分科会

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事、林敏昭、松田朋信各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	7月	北陸	医薬品工場のクリーン化技術
2	11月	関東	電子系工場施設
3	H29.2月	未定	クリーン化技術シンポジウム

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

クリーン化分科会として、今まで半導体、液晶(FPD)、医薬品等のクリーン化技術について主に取り組んできたが、今後は機械、食品などの産業分野、あるいは民生用の一般家庭、人体を対象にしたクリーン化技術にまで幅を広げ行く。

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会として医薬品、食品関係の工場見学会と講演会を計画して行く。また、他学会との技術交流のため共催シンポジウムを計画したい。

7.12 環境エネルギー・流動化分科会

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、鈴木康夫代表幹事、高島久継副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5.12	新潟	流動層焼却炉更新と講演
2	9.30	愛知	付着に関する講演会
3	10月	福井	バイオマス利活用見学会

幹事会開催予定:

分科会や分科会連絡会議と同時に幹事打合せを実施予定のため現状幹事会等の予定はない。

活動:

中期活動テーマ

震災と原発事故、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の実施など、環境エネルギーに関する課題は山積である。しかし実効のある技術や制度は、いまだコストや法制度の壁により有効に作用していない。環境エネルギー・流動化分科会ではこれらの課題に幅広く対応してゆく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

流動層プロセスで多く問題となる「付着」をテーマにした講演会を企画するほか、流動層を中心とした新しい焼却炉やバイオマス発電など注目される技術の見学会を実施する。

7.13 晶析分科会

(大嶋寛コーディネータ、長谷川正巳副コーディネータ、亀井利道代表幹事、津崎裕也副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6.24	東海	食品企業見学会及び講演会
2	8月	関東	専門講座フォローアップ
3	10月	関西	晶析技術分科会との合同企画

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会・小委員会:5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催-4,5,7,10,12月)

活動:

中期活動テーマ

日本の晶析技術は最先端であり、引き続き、他分科会とも連携して日独フォーラム(フランクフルト)に企画協力する。技術的には、晶析装置設計理論と晶析に関する最新情報について焦点を当てる。また、技術継承を目的として専門講座(または早期育成講座)を継続的に開催する。

また、平成28,29年度は従来の単独開催の他、他学会内の晶析研究グループとの協力により数件の合同開催も企画する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

単独での分科会開催については、新たに製糖、製氷分野の晶析技術も取り上げ、また海水学会若手会や晶析技術分科会(化学工学会材料界面部会)など他学会の晶析研究グループと協力し、合同セミナーなどの開催も実施したい。

7.14 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事、中村圭太郎、鳥居経芳各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	7月	東京	高濃度系スラリーの基礎と利用をテーマとした講演会
2	9月	和歌山	マイクロリアクターと凝集分散テーマとした講演会と見学会
3	12月	名古屋	微粒子・ナノ材料の有効活用をテーマとした講演会

幹事会開催予定:5回(4月-大阪、7,9,12月-名古屋、東京、兵庫、H28.2月-京都)

活動:

中期活動テーマ

微粒子ナノテクノロジーの最新技術、製造、利用およびリスク管理について、海外を含めてバランス良く情報を収集するとともに会員企業に向けた啓発を行う。特に、微粒子・ナノ材料を如何に活用していくか、有効利用を念頭に、基礎・評価技術、利用技術および産業応用につながる会員企業にとって有効な情報発信に重点を置き活動を進める。また、協会・ナノ粒子利用技術委員会の活動を中核分科会として支えていき、分科会横串的な役割を担っていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・濃厚系スラリー利用など微粒子・ナノ材料の有効利用を主なテーマとした講演会および見学会を分科会として企画開催(3回を予定)し、最新情報発信・啓発を進める。
- ・ナノ粒子利用技術委員会の活動を中核分科会として支えていく。

7.15 静電気利用技術分科会

(松山達コーディネータ、大澤敦副コーディネータ、北村直成代表幹事、乾薫副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月	京都大学	絶縁・電界測定・帯電
2	10月または11月	未定	未定

幹事会開催予定:3回(4、7、10月-東京 協会東京事務所)

活動:

中期活動テーマ

高度静電気利用技術による微粒子の制御

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・粉体工学会/粒子帯電制御研究会との協力関係による会員数の増大
- ・専門講座及び分科会企画の起点となる企業との関係構築

7.16 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元 祐代表幹事、桜井敏夫、佐藤高公各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	6.29	東京大学	EV バスと電池、電池材料
2	10.27	糸魚川市	スマートエネルギーと電池
3	H29.2 月	未定	

幹事会開催予定:3 回(上記本会合に併せて開催)

活動:

中期活動テーマ

次世代自動車やエネルギー貯蔵システムにおいて大きな貢献が期待される、電池、燃料電池、キャパシタなどの電池技術の抱える諸課題、たとえば、安全性や耐熱性、長寿命化、低コスト化、高容量化、高出力化などのブレイクスルーを図るべく、電池技術と材料技術、粉体技術を融合する場を提供し、わが国の産業競争力の強化に貢献する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

日本が得意とする材料技術と粉体技術の連携を強化しながら、汎用品の分野ばかりでなく、付加価値の高い特定のユーザーが必要とする電池の開発と商品化を促進するような活動を展開する。これによって、日本の電池産業の競争力の強化を図る。

7.17 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表幹事、増井芽副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	6 月	韓国	韓国のリサイクル事情
2	9 月	東京	最新リサイクルの全体像の講演会
3	12 月	鹿児島	金精錬の見学会

幹事会開催予定:4 回(上記本会合に併せて開催)

活動:

中期活動テーマ

「持続可能社会」「自然共生社会」「安全・安心社会」「高齢化社会」を基本的に見つめ、現実として震災復興、エネルギー問題に対して具体的に「リサイクル技術」がどう貢献できるかを見いだしていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

平成 28 年度は、第 1 回分科会で当分科会発足以来初の海外開催を試みる予定。隣国韓国では再生樹脂の採用率が日本に比べて非常に高い。日本国外を取り巻きリサイクル事情の一つを視察したい。第 2 回分科会では、当該分野の現状を俯瞰した講演会に絞り、新しいリサイクルやエネルギー事情全体を発掘していきたい。第 3 回分科会では、鹿児島の金精錬の見学会を実施し、レアメタルに関わるリサイクルの現状を掴んでいく予定。

7.18 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、千葉仁司代表幹事、川島哲文副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6.15	群馬	「食品のアレルゲン管理」
2	10 月	大阪	仮「廃棄物エネルギー化技術」
3	H29.2 月	未定	未定

幹事会開催予定:3 回(上記本会合に併せて開催)

活動:

中期活動テーマ

食品製造の基本となる『安全・安心』をメインテーマに、引き続き『新たな調理・生産方式』、『最先端の生産技術』、『食品の衛生管理』、『食品廃棄とリサイクル』などもテーマに活動したいと考えている。

今年度の事業計画の概要と運営方針

中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会や他分科会との共同開催などを通じ、食品に関わる新しい情報、技術を習得できる活動を行っていききたい。また、単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」など食品メーカーに有意義な場を提供していききたい、と考えている。

また、本分科会のテーマは食品に関わる重要技術を取扱っているため、協会のみでなく食品関連他団体とも連携して幅広く参加者を勧誘したい。

7.19 粒子加工技術分科会

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、吉田泰三代表幹事、伊藤有一、田中俊哉各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6.17	大阪府	日本製薬(株)見学講演会
2	9月	未定	
3	H29.2月	未定	

幹事会開催予定:4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

- ・粒子加工技術の向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤などに関する講演会・・・年3回
- ・製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し、協力を続ける・・・年1回
- ・粉体エンジニア早期養成講座開講・・・年1回

8. 粉体工業技術センター (増田弘昭センター長、豊見昭副センター長)

8.1 教育部門 (牧野尚夫マネジャー、大川原正明、松坂修二各副マネジャー)

委員会開催予定:本委員会1回、小委員会1回

活動:

平成28年度は、平成27年度と同様、粉体入門セミナー、粉体エンジニア早期養成講座などを中心に下表のような講座を実施する。専門講座については、あくまでも可能性が有りそうなものも含めてではあるが、昨年と同じ3件が提案されており、3～5件程度は今後も着実に実施していく方針である。また、入門セミナーより易しいコンテンツについては、これまでに実施したホームページの充実、参考書の紹介などの対応案について、参加者の意見などを調査し、より有効な方法へと改善していく。

入門セミナー等のアンケートで不満が出された案件のうち、会場の設備に対する不満など明らかな課題には着実に対応して行くが、講義が難しいなどの指摘については、講座が要求しているレベルと本人の知識レベルが異なっていることも原因の一つと考えられるので、より適切なレベルの参加者が集められるように、昨年度作成した講座レベルが見易い体系図入りの案内用パンフレットをさらに改良し、参加者が簡単にレベルを判断できるようにする。

アドホックセミナー、経営講座、特別講座については、良い案が出された時点で臨機応変に対応して行く予定である。

平成28年度開催予定講座

講座名とタイトル		開催日	開催場所
粉体入門セミナー(Ⅰ)(第47回)		H28.6.7～8	京都/メルパルク京都
粉体入門セミナー(Ⅱ)(第48回)		H28.6.21～22	京都/メルパルク京都
粉体入門セミナー(Ⅲ)(第49回)		H28.7.6～7	京都/メルパルク京都
粉体 エン ジニア 早期 養成 講座	粉体工学基礎論	H28.7.4～5	栃木・茨城/小山市生涯学習センター・ライオンフーズ(株)
	計測・測定	H28.8.23～24	京都/(株)島津製作所
	粒子加工	H28.9.29～30	浜松/アクトシティ浜松・フロイント産業(株)
	粉砕	H28.10.13～14	兵庫/東洋ハイテック(株)
	集じん	H28.11.9～10	浜松/アクトシティ浜松・(株)環境衛生研究所
	混合・混練	H28.11.17～18	大阪/(株)栗本鐵工所
	乾燥	H28.12.5～6	静岡/大川原化工機(株)
	ろ過	H29.1.26～27	大阪/関西金網(株)
第64回粉体技術専門講座<造粒分科会企画>		H28.8.31～9.1	大阪/(株)ダルトン
第65回粉体技術専門講座<集じん分科会企画>		未定	中部地区にて開催予定
第66回粉体技術専門講座<輸送分科会企画>		未定	未定

粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]	H28.9.8～9	京都/同志社大学 田辺キャンパス
粉じん爆発・火災安全研修[中級・技術編]	H29.3 月頃	東京/労働安全衛生総合研究所
特別講座	未定	未定

※粉体エンジニア早期養成講座 分級は隔年開催に。

粉体ハンドリングⅠ(輸送・供給)と粉体ハンドリングⅡ(貯槽・プラント)は講座内容見直し、H29 年開催準備のため休講。

8.2 製造事業部門 (竹内和マネジャー)

委員会開催予定:なし

活動:

1) Reference Material の確立:

標準粉体委員会にて検討中のMBP粒子の粒子径分布の不確か再計算結果のホームページUPを急ぎ、MBP粒子がトレーサブルの粒子径分布標準粉体(CRM)であることの宣言を目指したい。一方、サブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子(FSTP)の不確かさ範囲の測定・計算と粒子径分布ラウンドロビン試験も軌道に乗りつつあり、結果が出次第、MBPとFSTPを合わせて0.09～100 μmの範囲をカバーできる「APPIE粒子径分布CRM」として業界にPRできるような方法を検討はじめる。

2) 関連規格の整備、充実:JISの追補改定:

上述のCRMはじめ標準粉体の有効なPR法として規格を位置づけている。そこで、経産省から勧告のあった「JIS Z 8901 試験用粉体及び試験用粒子」の追補改定、日本空気清浄協会から要請されている、ISO 15957に記載されている「SAP14-12 試験用粉体3」のJIS化、を当面の課題とし、中期課題として「JIS Z 8900-1 標準粒子-第1部粒子径測定装置検定用粒子」(MBP粒子を収載)を上記CRMに対応するように改定を、さらに、CRMとしてのFSTPを収載するJIS原案(「JIS Z 8900-2」に相当)策定を調査の、目標として活動する。

収支計画:

上述のように、CRM化を中心に活動するが、技術的にも、手続き的にも未知の部分が多く、完了時期が見通せない。またJIS試験用粉体のように多量には売れないと思われるので、以下のような収支計画とした。

(単位:千円)

	平成27年度予算	28年度予算
売上(千円)	94,000	92,800
事業費(支出)	66,470	65,920
収支差	27,530	26,880

8.3 産学技術交流推進部門 (後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー)

委員会開催予定:3回

活動:

1) 技術相談 チラシ配布は今年1年実施したが、効果がないのでやめる予定だったが、教育部門主催の入門セミナーにて配布する必要がでてきたので、チラシのデザインを変更し、配布する予定になった。

HPからの申込みを促すため、HP上の技術相談ページをわかりやすく改変した。

申込みフォームも作成し、フォームからの申込みも可能にした。

改変した結果、昨年12月以降、相談申込が増加。

H27年度は最終、問い合わせ12件、面談へ移行が2件となった。

そのため、H28年度は、問い合わせ20件、面談へ移行10件をめざす。

2) APPIE産学官連携フェア2017開催に向けて準備。

6ヶ月後アンケートや2015の反省を踏まえて検討。

・技術相談コーナーの活性化、ポスターセッションの時間延長の検討など。

3) テクノカフェについて

講座名	開催日	講演場所	参加者数
第7回テクノカフェ	H28.10.13	京都/TKP ガーデンシティ京都	50

第8回テクノカフェ	H29.3月	京都/ホテルセントノーム京都	20
-----------	--------	----------------	----

※APPIE 産学官連携フェアが開催されない年は2回開催。

4)粉体技術セミナー

APPIE 産学官連携フェア 2015 でベストシーズ賞に受賞者に講演を依頼。

講座名	開催日	講演場所	参加者数
第2回ベストシーズ講演会	H28.10.13	京都/TKP ガーデンシティ京都	50

9. 技術情報交流懇話会

9.1 火曜会： 東京にて4回開催する。

4月12日、7月12日、10月4日、H29.1月17日

9.2 水曜会： 名古屋にて3回開催する。

6月22日、10月26日、H29.2月15日

9.3 木曜会： 大阪にて4回開催する。

5月12日、9月8日、12月8日、H29.3月2日

9.4 金曜会： 福岡にて3回開催する。

7月22日、11月11日、H29.3月10日

10. 共催・協賛及び後援行事

10.1 共催

(H28.4.1～H29.3.31 確定分)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第33回エアロゾル科学・技術研究討論会	H28.8.31～ 9.2	大阪/大阪府立大学	日本エアロゾル学会
第50回化学工学の進歩講習会	H28.11.9～ 11.10	名古屋/名古屋市工業研究所	(公社)化学工学会東海支部

10.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第33回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H28.4.19 ～4.20	東京/早稲田大学	(公社)日本空気清浄協会
TECHNO-FRONTIER 2016	H28.4.20 ～22	千葉/幕張メッセ	(一社)日本能率協会
界面コロイドラーニングー第32回現代コロイド・界面化学基礎講座ー	H28.5.12 ～5.13	東京/日本化学会館	(公社)日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
	H28.6.16 ～6.17	大阪/大阪工業大学 うめきたナレッジセンター	
化学工学会「産学人材育成パートナーシップ事業」	H28.5.25 ～9.28	東京、千葉 他	(公社)化学工学会
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H28.5.27	東京/全国家電会館	(一社)日本エネルギー学会
FOOMA JAPAN 2016	H28.6.7 ～6.10	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
色材セミナー	H28.6.17	大阪/ドーンセンター	(一社)色材協会 関西支部
第1回講演会	H28.6.24	東京/日本ペイントホールディングス(株)	日本塗装技術協会
先端技術を支える単位操作のイノベーションシリーズ	H28.6.27	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
色材分散講座	H28.7.13	大阪/大阪科学技術センター	(一社)色材協会 関西支部
第20回国際乾燥シンポジウム(IDS2016)	H28.8.7 ～8.10	岐阜/長良川国際会議場	(公社)化学工学会,岐阜大学
第49回塗料基礎講座	H28.8.18 ～8.19	大阪/大阪科学技術センター	(一社)色材協会 関西支部

粒子・流体プロセス技術コース 2016	H28.8.25 ～8.27	東京/中央大学後楽園キャン パス	化学工学会粒子・流体プロセス 部会流動層分科会
サイエンスエキスポ 2016	H28.12.6 ～12.8	大阪/大阪府立国際会議場	フジサンケイビジネスアイ 大阪科学機器協会

11. 刊行物

11.1 「粉体技術」

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会
 発行 (一社)日本粉体工業技術協会
 月刊誌 (1,500円・税別) (A4版 約100ページ 約1,500部/月)

11.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文 2016年度版) A4版 11ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:平成28年7月(700部)

11.3 日本粉体工業技術協会 事業案内(英文 2016/2017年度版) A4版 6ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:平成28年7月(500部)

11.4 日本粉体工業技術協会 会員名簿(2016/2017年度版) A4版 114ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:平成28年9月(750部)

11.5 日本粉体工業技術協会 最近の5年(2011(平成23)年～2015(平成27)年) A4版 100ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:平成28年11月(750部)

11.6 粉体技術総覧 2016/2017 A4版 約300ページ
 編集/発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会
 発行:平成28年11月(誌本 10,000部 CD 10,000部)

11.7 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト
 編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他
 発行:各50～100部